

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

一般の部



令和七年七月度 入賞句一覧

投句数 五百二十七句

特選

田中 青志 選

向日葵を見ている吾もみられをり

大垣市

村井 娑婆

夏、向日葵が一斉に整列してかつと開き一方向を見ている。この圧巻を見る吾。向日葵に見られてひまわりに見えれば向日葵が吾を見ているわけ。俳句は見ているものを書くわけだから、見る、見ると書く必要はないわけだが、この場合は擬人化された向日葵がわれを見ているのだから止むを得ない。

腰高の上がり框や蚊遣香

不破郡垂井町

北村 廣美

太棧の大戸、高い敷居を跨ぐと広い土間、黒光りする大黒柱、腰高の上がり框に箱火鉢、がっしりとした須戸。案内を請うと、奥の方から応答の声。ゆつたり燻る蚊遣香。遠い昔、大寺の庫裏を訪れたときの記憶。

竹皮を脱ぐ大いなる吾子の靴

愛媛県松山市

平野 ヒサエ

大きいことはいいことだ、ということば。吾子の靴の大きさはまさに戦艦大和。足は体に比例する。がっちりした体躯。少なくとも健康だけはこの世に保障された重量感。今年竹がしつかりと皮を脱ぐに似て好感の景。

秀逸

余り苗風にそよぐといふ知らず

不破郡垂井町

大羽 志風

学校に慣れて疲れて麦の秋

本巢市

小泉 裕子

遠くまで波打ちてゆく青田風

不破郡垂井町

竹嶋 富美子

張り出して夏草川を曲げにけり

大垣市

小林 研

夕食を終えて日永の散歩かな

本巢郡北方町

三輪 幸恵

雨の香やかなぶんぶんのとびこめり

大垣市

遠藤 加容子

包む手の隙間に光初螢

埼玉県越谷市

小田 毬藻

夏の航沈む夕日を追ひかけて

神奈川県横浜市

龍野 ひろし

登校の生徒輝く衣更

大垣市

澤井 国造

草矢射る好きなきの背にそつと射る

大垣市

大杉 すみゑ

入選

夏めくや母の襟元ゆるやかに

安八郡神戸町

大槻 恭子

青田には青田の風の渡りくる

不破郡垂井町

大羽 志風

弁当の包み解く樹下夏の蝶

岐阜市

廣瀬 あや子

花菖蒲業平祀る薬師寺

不破郡垂井町

児玉 信子

虹二重まだ濡れてゐる石畳

東京都新宿区

花澤 ちいこ

渚ゆく二人の肩に夏の月

大垣市

平野 順一

早苗田の輪中くまなく水明り

養老郡養老町

田中 紫香

友の背に追ひつかずゐて茄子の花

大垣市

森田 和子

鮎のぼる清流の底きらめきぬ

本巢市

山田 香山

拝殿の茅の輪をくぐる星の夜

大垣市

傍島 隆

汗飛ばし立ち漕ぎ坂を越えてゆく

大垣市

三輪 実

大声で飛語もまことも溝浚へ

本巢市

小泉 裕子

夏布団そと子に掛くる母白寿

三重県四日市市

井立 美智乃

ハネムーンちよつと露出の水着買う

埼玉県越谷市

小田 毬藻

帰り道抜き手真似するプールの子

三重県鈴鹿市

余川 もりお

選者吟

くわつと太陽くわつと夏くわつと向日葵咲きそろふ

青志



一般の部